

災害の被害を抑えるためには、自助・共助、公助のバランスが大切です。日頃からの取り組みが災害時に生きてきます。

みんなが自分の身の回りの防災について考える際の手がかりになるように、西淀川の防災についての情報をまとめました。

## 自助「自らの安全を自らが守る」

- ・3日分の食料や水、簡易トイレ等の備蓄。
- ・要援護者は助けられ上手になるように、必要な支援を周りにわかりやすく伝えることが大事。

## 共助「自分のまわりの人々を自分たちで守る」

- ・災害に見舞われたとき、すぐに行政機関や自衛隊は助けに来てくれません。
- ・一人でも多くの命を助けるためには、被災した住民同士で救助活動を行わないといけません。

## 公助「行政機関や自衛隊等の公的機関の活動」

- ・災害時の公助体制のチェック、住民から要望を出すことも重要です。

### 【あおぞら財団とは】

西淀川大気汚染公害裁判(1978~1998)の和解金の一部を使って立ち上げられたまちづくり組織。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4F  
Tel:06-6475-8885 e-mail:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/

みんなで守る!  
みんなで助かる!

VOL. 2

# にしよどがわ 防災まちづくり 通信



発行日:2013年3月

発行元:あおぞら財団 <http://www.facebook.com/engoshakyouiuku>

※この事業は「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」を受けて実施しています。

## 西淀川は水害へのそなえが必要です

- ・西淀川区は、過去から繰り返し大きな災害に見舞われてきました。
- ・津波、大規模な浸水、地震時の地盤の液状化、橋の通行止めによる陸の孤島化などの可能性があります。
- ・今後、マグニチュード9クラスの南海トラフ巨大地震がおきた場合、西淀川では、震度6弱、津波高はO.P.\*+4.4~5.5m(O.P.: 大阪湾最低潮位面)、津波の到達時間は120分と予想されています。

(参考資料:内閣府「南海トラフの巨大地震に関する津波高、浸水域、被害想定公表について」(2012年8月29日))



松井 久仁夫さん  
西淀川区役所まちづくり推進課

西淀川区では、災害に備えて、

- ・津波避難ビルの指定
- ・避難所開設運営訓練の実施
- ・連合単位の地域防災マップ、
- ・津波避難訓練の実施
- ・地域防災リーダー講習会の実施
- ・福祉避難室の指定

などに取り組んでいます。

## 災害時に支援を必要とする人がいます

### 大災害時にはたくさんの要援護者がなくなっています

- ・災害発生後の高齢者や障がい者などの援護を必要とする人々(要援護者)の避難誘導が大きな課題として浮上してきました。
- ・東日本大震災でも、死者・行方不明者のうち6割は60歳以上の高齢者、障がい者の死亡率は住民全体の2倍とたくさんの人々が命を落としています。



梅 紀久代さん  
ユニバーサルデザイン社会

- ・要援護者の命を守るためには、援護者数を増やさなければなりません。そのためには、援護者教育が必要です。
- ・地域密着型で企業、学校、福祉施設等が参加してネットワークを繋ぐことも大切です。

### こんな方々が災害時に支援を必要としています

- 肢体不自由者
- 介護が必要な高齢者
- 目が不自由な方
- 耳が不自由な方
- 子ども、乳幼児・妊婦
- 傷病者 など



## 要援護者はこんなことに困っています①

### 梶 紀久代さんのお話

ユニバーサルデザイン社会

- ・障がい者の中には災害時に命を落とさないといけないと覚悟している人もいますが、そういう社会はおかしいと思います。
- ・要援護者は、自分の存在をアピールして「助けられ上手」になるのが大事です。
- ・車いすを押すにも、介助の仕方を知らないと大けがに繋がることもあります。介助のちょっとしたコツを知っておくことで要援護者を助けることができます。



### 災害時のユニバーサルデザインソフト面の7原則

梶さんが提唱している

- 【安全】安全に避難所までいけるように
- 【安心】要援護者が安心して発信できるように
- 【快適】快適な搬送を提供できるように
- 【簡単】搬送用具は簡単に使えるように
- 【便利】便利な保管所を確保できるように
- 【真心】要援護者・援護者も双方ともに
- 【配慮】お互いに真心を持って配慮できるように

3

### 守屋 陽介さんのお話

視覚障がい者／明石市

- ・視覚障がい者は、災害などのいつも違っている時に、情報を得るのが困難になります。
- ・災害時には、5つの支援がほしいと思っています。
  - ①声を掛けてほしい
  - ②避難所まで手引き・誘導してほしい
  - ③避難所で通路を明確に作ってほしい
  - ④トイレへの行き方、使用方法を教えてください
  - ⑤物品は直接手渡してほしい
- ・避難所では、視覚障がい者であることが周りに伝わらなかったため、白杖が周りの方に当たってしまう、音がうるさいと怒鳴られることもあったと聞きました。
- ・連絡事項などを紙で書かれると、視覚障がい者は情報を得ることができません。そのため、配給を取り損ねるなど困ったことが起きたようです。
- ・要援護者側としては、日頃から周囲との付き合いを大切に、自分の存在をアピールしたいと思います



4

## 要援護者はこんなことに困っています②

### 藤井 文雄さんのお話

小腸・直腸・膀胱機能障がい者／明石市

- ・人工肛門・人工膀胱(ストーマ)を腹部に造設された身体障がい者をオストメイトといいます。
- ・オストメイトが一番困ることは、トイレです。一般のトイレでは排泄物処理、ストーマ装具の交換・装着などを行うことが困難です。
- ・災害用オストメイト専用トイレが開発されていますので、災害時にそれが使えるようにしてもらえたらと思います。



### 鮫島 文子さんのお話

重症心身障がい児の保護者

- ・西淀川特別支援学校に息子が通っています。津波が来ると3階以上の避難ビルに避難しなければいけません。先生が車いすごと担ぎあげるしかないようです。
- ・避難場所までの道幅が狭く、車いすが通れない箇所もあります。

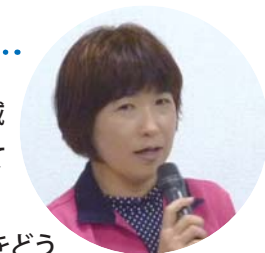


5

### 原 博美さんのお話

NPO法人にしよどにこネット(子育て支援組織)

- ・小さなお子さんをお持ちの方は、地域の避難訓練にもなかなか参加できていません。
- ・避難所での紙おむつやミルクなどをどうすればよいのか、子どもの泣き声が迷惑にならないかなど、不安を抱えている人はたくさんいます。
- ・乳幼児の保護者に防災意識を持ってもらうには、何らかのはたらきかけが必要です。



### 中島 貞子さんのお話

エスコープ大阪(障がい施設)／堺市

- ・知的・精神障がい者(児)は、災害が起こった時にパニックを起こす可能性があります。
- ・重症心身障がい児で胃ろうから栄養を取っている子の食材等、実際に災害にあった時の為にまず何をはじめてしておかないといけないのか、家族様との話し合いの場を設けることが必要だと思っています。



6



## 要援護者と共に避難訓練が行われています①

要援護者支援を取り入れた避難訓練があちこちで行われています。

### 西淀川区では地域で自主防災活動に取り組んでいます

- ・西淀川では地域ごとに、自主的な防災活動を行っています。
- ・津波災害を想定して、救助用担架を使った要援護者の垂直搬送訓練なども行っています。

### 要援護者の情報はどやって知るの？

- ・地域で自主防災組織が組織され、要援護者支援の取り組みをすすめられた場合は、区役所は区が持っている要援護者情報を提供することになっています。



松井 久仁夫さん  
西淀川区役所まちづくり推進課

平成24年度の要援護者支援のための救助担架などの資器材を避難所に配備しました。今後、その資器材を利用して自主防災を中心とした訓練をすすめていく予定です。

7

### 西淀川区社会福祉協議会の取り組み

- ・震災発生後の1日を体験する「激震14時46分!」を2013年3月9、10日に行いました。この体験は、区社協災害対策本部のシミュレーションも兼ねており、炊き出しや宿泊体験、避難所便利グッズの作成などが行われました。障がい児の家族も宿泊体験しました。
- ・12地域の子育てサロンで乳幼児親子のための防災体験を行っています。乳幼児でもわかりやすいように紙芝居を使ったり、寝袋などを使った避難所体験をしています。
- ・姫島連合振興町会が独自で行う防災訓練、緊急カードなどに企画から関わっています。



阪本 直美さん  
西淀川区社会福祉協議会  
ボランティアコーディネーター

災害が起きたら誰もが弱者になりうると思います。地域の住民さん自らが考えられるような支援を行っています。また、被災地を忘れない、風化させないための啓発活動にも力をいれています。

8

## 要援護者と共に避難訓練が行われています②

### 津波避難ビルで要援護者訓練

- ・要援護者として、西淀川区在住の視覚障がい者2人、車いす利用者5人に参加していただきました。
- ・佃地区では、地域独自で「津波避難ビル」を確保しています。その避難ビルのひとつの佃スカイハイツにて、布製担架を使って上下搬送訓練を行いました。



蔵野 洋子さん  
障がいのある翼さんと避難訓練に参加

・避難訓練に参加するのは初めてです。  
・本人(障がい者)は気持ちよく搬送してもらったようです。  
・どやって逃げるか?何を持っていかないといけないか?どこを通っていけばいいのか?を考えさせていただきました。

9

## 要援護者の避難支援グッズ



### 小回りのきく布製担架

- ・布担架は、棒担架と異なり細い通路や階段などでも扱いやすくなっています。
- ・訓練で使用した布製担架は、西淀川区の各避難所に備蓄されています。

担架が備蓄されていても使ったことがないと、いざという時に使うことができず宝の持ち腐れになってしまうかもしれません。

### 車いすをけん引できる補助装置

- ・車イスに取り付ける人力車の“取っ手”のような商品もあります。
- ・車イスを軽々と引くことができ、小さな段差も乗り越えることができます。

※けん引式車いす補助装置 JINRIKI  
<http://www.jinriki.asia/>



10

# 避難所で要援護者が安心して過ごすために

要援護者の中には、避難所での生活が困難であるために被災リスクが高いにもかかわらず避難しない(できない)方が多数おられます。要援護者が安全に避難生活を送るための避難所が必要とされています。

## 簡易ベッド



## パーテーション



## おんぶひも



西淀川区で指定している避難所には、救助担架、救助用おんぶ紐、簡易ベッド、パーテーションなどが備蓄されています。



増本 美江さん  
障がいのある花音さんと避難訓練に参加

- 色々な防災グッズがあり、びっくりしました。
- 私の娘は大きな声を出し続けたりすることがあったりするので、周りの人に気を遣うと思います。



吉田 真里恵さん  
佃地域総合相談窓口アイ  
(ケアプランセンターちぶね)

- 重度障がい者だけでなく高齢者でも流動食が必要な人は多くいます。避難所に流動食を備えてはどうでしょうか？
- 痰の吸入器を避難時には持ちだせないかもしれないという声がありましたが、注射器とチューブで痰の吸入器を代替するなど、災害時にはさまざまな工夫が必要だと思います。

# 日頃から災害に備えよう

- 災害時に必要なものは人によって異なります。
- 要援護者に配慮した防災グッズもあります。

## お手伝いバンダナ・医療バンダナ

- 自分が必要とする支援をバンダナにマジックで記入することで、支援を受けやすくすることができます。
- 「手話ができます」「介助ができます」などできることをバンダナにマジックで記入すると、支援を必要としている人とのマッチングがスムーズに行われます。



トガキクヨ・ドットコム <http://www.togakikuyo.com/bandana.html>

## 簡易トイレ

- 災害時にトイレを衛生的に使うことができないと、水を控えて脱水症状になるなど問題があります。
- 断水時でも衛生的に使うことができる簡易トイレがあります。

## 簡易トイレの例 「オ・サンポレット」

- 組立式で、コンパクトに収納できる。
- 便袋を使用して、衛生的に使える。

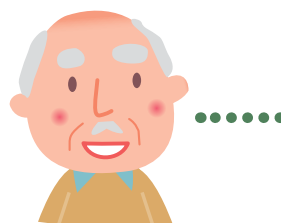


UD卸売市場 <http://www.ud-passion.com/o-sanpolet.html>



### 利用した方の感想

- 普段からかばんにいれておいてもよさそう。
- 見えるようにしてあると、声をかけやすい。



### 利用した方の感想

- 対角線上に座ることができるので、足に力を入れて座りやすい。
- コンパクトに折りたためるのもいい。